

ハンググライディングシリーズ開催規則

Ⅱ－１【大会】

1. JHF 公認（JHF ハンググライディング公認大会規則に則った大会）かつ FAI カテゴリー2 の大会とする。

Ⅱ－２【参加資格】

1. JHF フライヤー会員登録者で、JHF クロスカントリー技能証を有するフライヤーであること。海外からの参加者については、JHF クロスカントリー技能証と同等の技能を有し、日本国内で有効な第三者賠償責任保険（JHF フライヤー会員登録）に加入していること。それ以外については大会個別の開催規定に準ずる。
2. 有効なスポーティングライセンスを有していること。
3. 参加資格のある者は、誰でも参加できなければならない。大会運営上やむをえず人数を制限する場合は、その選考方法は前年度ハンググライディングシリーズの順位を優先し、公平なものでなければならない。所持技能証以外に参加に制限（女子のみ、学生のみ等）がある大会は、ハンググライディングシリーズ大会としては認められない。

Ⅱ－３【大会期間】

1. 大会期間は連続した日とする。

Ⅱ－４【フライト本数】

1. 競技は１日１本とし、サーマルソアリング主体とする。

Ⅱ－５【順位】

1. 着陸精度は順位得点に含めない。

Ⅱ－６【大会報告】

1. JHF 所定の大会報告書を大会終了後２週間以内に JHF 事務局に提出すること。
2. 提出されない場合は、大会結果をシリーズランキングに計上しない。

Ⅱ－７【資料送付及び参加承諾】

1. 開催要項、競技規則等は、大会開催日の２週間前までに送付を希望した選手には送付すること。
2. 大会資料送付に伴い、参加承諾書（エントリーNo.）も添付のこと。

Ⅱ－８【タイムスケジュール】

1. タイムスケジュールや場所等は大会要綱に添付すること。

Ⅱ－９【受付】

1. 大会が始まる前に、最終的な参加者を把握すること。また毎朝受付を行い、当日の参加者数を確認すること。

Ⅱ－１０【GPS コーディネイト】

1. マップデイトム：WGS84 ポジションフォーマット：dd mm' ss.s" で統一する。
主催者は選手に対して告知すること。
2. ウェイポイント（WP）の座標は、事前に競技委員会のホームページに掲載し、基本的に選手自身が各自の GPS にアップロードする。
3. 飛行禁止空域（CTR）のファイルは事前に競技委員会ホームページに掲載する。また、飛行禁止空域（CTR）に高度制限がある場合は、当日そのタスクの QNH の値をタスクボードに明記し、選手に対してアナウンスする。

Ⅱ－１１【位置説明】

1. 大会本部、公式掲示板、機体解体場所、機体駐機場所等の場所を明示すること。

Ⅱ－１２【エリアルール】

1. 機体の運搬及び回収方法、車を使用する場合の道路、駐車場等についても、具体的に案内すること。
2. 大会前の練習フライトを行う場合や、アウトランディングの罰則など、エリアルールを選手に案内すること。
3. 主催者は、独自のテイクオフルールを設定してもよい。その場合、HG 競技委員会の認可を受けなければならない。また、選手に対しては大会規則にて案内すること。
4. 主催者は、設定した空域において競技日ごとに旋回方向を指定できる。但し、極端な不公平があってはならない。
5. 主催者は、飛行禁止空域を設定できる。その場合、地図等にて選手に明示すること。

Ⅱ－１３【持参品】

1. 大会参加時に参加選手が持参するべきもの（JHF 会員登録証、スポーティングライセンス、技能証、GPS、デジタル無線機等）を案内すること。
2. mini USB TypeB、micro USB TypeB、USB TypeC 以外の GPS の接続ケーブルが必要な選手は持参するように案内すること。
3. 主催者は、選手の緊急パラシュートのリパック時期を確認すること。

Ⅱ－１４【安全】

1. 安全にフライトできる条件で競技を行うこと。
2. テイクオフ前に全体重をかけて、ハングチェックを実施すること。

3. 本部、テイクオフ、ランディング、ゴールの各役員は選手の情報（名前、電話番号、緊急連絡先氏名、緊急連絡先、緊急連絡先続柄、血液型）が印刷された紙を持つこと。
4. 主催者は緊急時対応連絡網に必要事項を記入し、印刷されたものを本部、テイクオフ、ランディング、ゴールの各役員に携帯させること。

Ⅱ－15【運営】

1. 大会主催者は必ず選手の代表を含むタスクコミッティーとセーフティコミッティーを設け、アドバイスを受けること。
2. 主催者はコミッティーに対して、そのセットアップ場所を優遇する事が望ましい。